

ダイバーシティ推進

企業にとって財産ともいえる社員の力を最大限に発揮させるためには、社員一人ひとりの多様な背景や目的を尊重し、だれにとっても働きやすい環境をつくるのが大切です。さらに「ダイバーシティ」の発展した概念として「ダイバーシティ&インクルージョン」があります。多様性を受け入れ、個々人の力を活かすことで相乗効果が生まれ、企業はより一体感を増し成長していくのです。



日本ユニシスグループで初となる盲導犬を受け入れ



石神 宜行
人事部 人事室 室長

一般社員にも協力を求めて盲導犬を受け入れる環境を整備

視覚障がい者にとって最大の思いは、どこでも自ら安全に行動したいということです。盲導犬は、視覚障がい者の方の目となり、杖となって手助けをし、この望みをかなえてくれるパートナーです。

今回、視覚に障がいのある社員がパートナー(盲導犬)と巡り合うことができた聞き、盲導犬を受け入れることは会社として初めてのケースです。どのような配慮が必要なのかを「日本盲導犬協会」に出向き、話を伺うことから始めました。盲導犬を受け入れることに対して、会社として考えなければならないことは大きく分けて二つありました。それは、一般社員に対する配慮と盲導犬に対する配慮です。

まず一般社員に対しては、社内向けホームページに盲導犬の受け入れについて協力をお願いを掲載しました。盲導犬は、利用者本人が仕事をしている最



社内向けホームページに掲載した協力をお願い

中は、机の下で待機しています。この間もそれが仕事であるということと、盲導犬にとって常に使用者が自分のリーダーであることを意識させるために周りの人は目を合わせないなど、極力無視することが求められるのです。これは実際には非常に難しいことで、とくに犬好きの方から見ると盲導犬は健気でかわいいので、ついつかまいたくなってしまいますが、ぐっと我慢です。

今後も障がい者が自立して仕事ができる環境づくりに協力

次に盲導犬に対して、待機中はできるだけリラックスさせてあげたいとのことから、ケージと低温マットを用意しました。大分落ち着いて待機できているようです。トイレについても総務部門と相談し、犬が落ち着いてできる場所の確保、雨の日には多目的トイレを使用できるようにするなど、細かな事柄を利用者とともに確認していきました。

視覚障がい者で盲導犬が必要な方は全国に約7,800名いらっしゃるのに対し、盲導犬は1,000頭あまりで、まだまだ不足しているのが現状だそうです。我々がまずできることは、障がい者の方が自立して仕事ができる環境づくりに協力していくことだと思います。そのためには、今後も盲導犬の役割について理解を深めていくことが大切ではないでしょうか。



郡 悟
日本ユニシス・アカウントینگ
会計一部一室

職場の上司から

早く仲睦まじい“名コンビ”になってください。

盲導犬を受け入れるにあたっては、事前に日本盲導犬協会、ビル管理会社、関連部署の方、利用者本人と盲導犬が一同に集まって話をしましたので、安心して受け入れることができました。最初は多少のトラブルがあると覚悟をしていましたが、いまも特段問題なく、毎日おとなしく机の下で過ごしています。

周りでは、盲導犬の受け入れでいい効果も出ています。それは、盲導犬の話題で職場の雰囲気が明るくなったり、

盲導犬の姿を見て、癒されたりしているということです。本人たちも徐々に慣れてきたようです。早く仲睦まじい名コンビになっていただきたいと思います。

涌井 健一

日本ユニシス・アカウントینگ
会計二部二室 室長



自信をもってお客さまに接し、こちらから提供したものを認めていただいた時。「次はもっと良いものを提供するぞ」という目標ができ、動きがいつながっています。
USOL九州(株) 坂本 啓太郎

会社はいろいろな制度が充実していて、恵まれた環境で働けることを誇りに思います。充実した教育制度を活かしてお客さまのご要望に応えるためのスキルを習得していきたいです。

USOLベトナム(有) Dang Thi Lan Phuong

